

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	②-89	実施計画番号	110	事業開始年度	
事務事業名	地域防犯活動への支援			事業終了年度	
担当課名	まちづくり支援課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	関連事務事業				
背景や経緯等	地域や警察と連携し防犯パトロールや啓発活動等を実施している団体が、まちの防犯活動を積極的に進めるための各種支援を行う。				
事務事業の目的	犯罪のない明るいまちづくりを進めるため、防犯団体が行う活動を支援する。				
実施状況	防犯団体へ対して支援した。				

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	30	30	30
	人件費(千円)	1,080	1,080	1,080
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)		1,155	1,155	1,155

【指標】

活動指標	活動指標名①		委託事業による防犯街頭活動回数				
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
			回	8	12	12	
	活動指標名②						
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
成果指標	成果指標名①		犯罪件数(刑法犯 認知件数)				
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
			件	目標値	350	325	300
				実績値	362	338	
				達成度(%)	97%	96%	
	成果指標名②						
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
			目標値				
			実績値				
			達成度(%)				

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
妥当性	①	市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffff00;"> <td style="text-align: right;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> 犯罪を抑止するには、警察行政だけではなく、市行政及び地域住民が一体となって活動することが必要である。 </td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	犯罪を抑止するには、警察行政だけではなく、市行政及び地域住民が一体となって活動することが必要である。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
犯罪を抑止するには、警察行政だけではなく、市行政及び地域住民が一体となって活動することが必要である。										
②	実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2	4					
有効性	③	活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffff00;"> <td style="text-align: right;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: center;">1 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> 防犯団体等の活動は、犯罪の抑止と地域住民の防犯意識を高めることに大いに効果があるが、地域の防犯データなどもみながら、より効果的な活動を促していく必要がある。 </td> </tr> </table>	成果向上の余地	1 / 6	防犯団体等の活動は、犯罪の抑止と地域住民の防犯意識を高めることに大いに効果があるが、地域の防犯データなどもみながら、より効果的な活動を促していく必要がある。	
	成果向上の余地	1 / 6								
	防犯団体等の活動は、犯罪の抑止と地域住民の防犯意識を高めることに大いに効果があるが、地域の防犯データなどもみながら、より効果的な活動を促していく必要がある。									
④	成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	5					
⑤	事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1	6					
効率性	⑥	事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffff00;"> <td style="text-align: right;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> 犯罪件数は、平成26年度に比べ24件減少しており、一定の成果をあげている。 </td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	犯罪件数は、平成26年度に比べ24件減少しており、一定の成果をあげている。	
	コスト削減の余地	0 / 6								
	犯罪件数は、平成26年度に比べ24件減少しており、一定の成果をあげている。									
⑦	他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6					
⑧	民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6					
公平性	⑨	受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffff00;"> <td style="text-align: right;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> 安全安心なまちづくりは全市民の福祉の向上につながるものであり、偏りはない。 </td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	安全安心なまちづくりは全市民の福祉の向上につながるものであり、偏りはない。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
安全安心なまちづくりは全市民の福祉の向上につながるものであり、偏りはない。										
⑩	受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2	4					
現在の適性					19 / 20	改善の余地	1 / 20			

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **19** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **1** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

現状のまま継続

方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

防犯団体への支援は、犯罪の未然防止に大いに寄与していると思われるため、データなどから、より効果的な活動に努めつつ、継続する。

今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

街頭啓発、イベント時のパトロール、防犯行事等により、市民の防犯意識の啓発を図る。